

「学ぶ力」	
実態	成果
<p>◇「課題探究的な学習」について 学校評価において「学校はわかりやすい授業を行っていると思う」生徒は 93.5%。「授業を理解していると思う」生徒は前年度 69%から 80%へ増加した。各教科において AAR サイクルを生かした授業づくりに引き続き努めたい。</p> <p>◇「自治的な活動」の実態 生活委員会において生徒主体の話し合いで服装に関する決まりの一部を改訂した。また、行事や生徒会活動、学年・学級活動を含めて生徒主体の自治的な活動を積極的に進めた。</p>	<p>◇「学校の授業を理解している」生徒は増加しているものの、一部生徒に授業への主体性が高まらない姿も見られる。どのような手立てがあれば学習意欲が高まるのか、学びに関する生徒の困り感を把握しつつ、合理的配慮とも合わせて今後研修の機会などで検討していく。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査及び学校評価アンケートの結果から、自ら計画を立てて家庭学習に取り組む生徒の割合は 50%前後から若干増加したが、実態として大きな改善はみられない。キャリア学習などを通して自分の将来について考え、学習に対する必要感をもたせるような取組を一層進めていく。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけない」「人が困っているときは進んで助ける」の項目が全国と比べても高く、相互承認の感度が高いことがうかがえる。同調査の「自分にはよいところがある」が 88.7%。「先生はよいところを認めてくれている」も 98.1%と全国と比べても高いことが自己肯定感、自己有用感を高め、仲間への承認感度の高まりへとつながっていると考える。今後とも協働的な学習により相互理解を深める機会を増やし、自治的な活動で更に生徒一人一人が活躍できる場面をつくるなど、細やかな取り組みや声掛けを継続したい。</p>	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
自ら進んで学習に取り組む力	
課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
<p>(1) 課題探究的な学習の前提となる基礎基本の学びについて、子どもの多様性を包摂する教育課程及び授業の在り方について研修していく</p> <p>(2) 自己選択・自己決定できる個別探究の充実 ⇒基礎的・基本的の習得に基づき、自己内対話によって試行錯誤する課題の提供</p> <p>(3) 他者を求め対話によって思考を再構築する協働探究の充実 ⇒学びを深化させる対話の場の適宜適切な設定</p>	<p>①相互理解を高める対話の場の創出 ⇒学校行事・生徒会活動・学年学級活動などの自治的な活動の充実 ⇒生徒自らが考え、きまりや活動を見直す資質・能力の醸成 ⇒自尊感情を高め、多様な他者を尊重する心の醸成</p> <p>②コミュニティスクールの仕組みを生かした「子どもの声を聴く」機会の創出</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
<p>◇主に(1)～(3)について、ICT のより効果的な活用を校内研修において指導事例を交流する等して検討していく。</p> <p>◇主に②について子どもの声を聴く機会を創出するため、オンラインの活用等の手立てについてパートナー校と話し合う機会もつ。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>



